

はしがき

本学会の第23回大会は、2011年11月12日（土）、13日（日）の両日、愛知大学車道キャンパス「コンベンションホール」で宮入興一会員を大会幹事として行われた。シンポジウムのテーマは「大震災と税制」であった。一般報告として木村幹雄会員より「相続・贈与時におけるキャピタル・ゲイン課税——みなし譲渡課税制度の再検討」の報告が行われた後、中村芳昭、岡田俊明、馬淵泰至、岡幸男各会員より「震災特例税制に関する問題提起」（合同報告）、鳥飼貴司会員より「震災法務と課税」、弓削忠史会員より「大震災後の人権保障に基づく税法及び税務会計の在り方」、高沢修一会員、陳君、姜凌、曲愛娟各氏より「大震災におけるGMSの物流体制・CSRと『震災引当金』の創設提言」（合同報告）、宮入興一会員より「震災復興と税財政」の諸報告が行われた。

右の諸報告を受けて、活発な討論が行われた。

本号は、以上の報告と討論を収録するものである。

次号は「税制改革と消費税」である。

2012年5月

日本租税理論学会事務局